

グリサポ取組報告会
2025年1月30日

トマト栽培における天敵利用技術

ウイルス媒介タバココナジラミ対策として

農研機構本部 みどり戦略・スマート農業推進室

とよしま しんご
豊島 真吾

トマト黄化葉巻病が発生したトマト栽培ハウス



- ➡ 病原は、**トマト黄化葉巻ウイルス** (Tomato yellow leaf curl virus : **TYLCV**)
- ➡ 1996年に日本国内で初発生し、その後、全国のトマト産地に急速に拡大
- ➡ 感染力が強いうえ、発症したトマト株は新葉が葉巻き、あるいは小葉化して黄化し、被害が激しいと大幅に収量が減少
- ➡ 人為的な接触や土壌、種子からは伝染せず、
害虫のタバココナジラミによってのみ媒介される
(接ぎ木で伝染するが台木が感染していなければ問題なし)



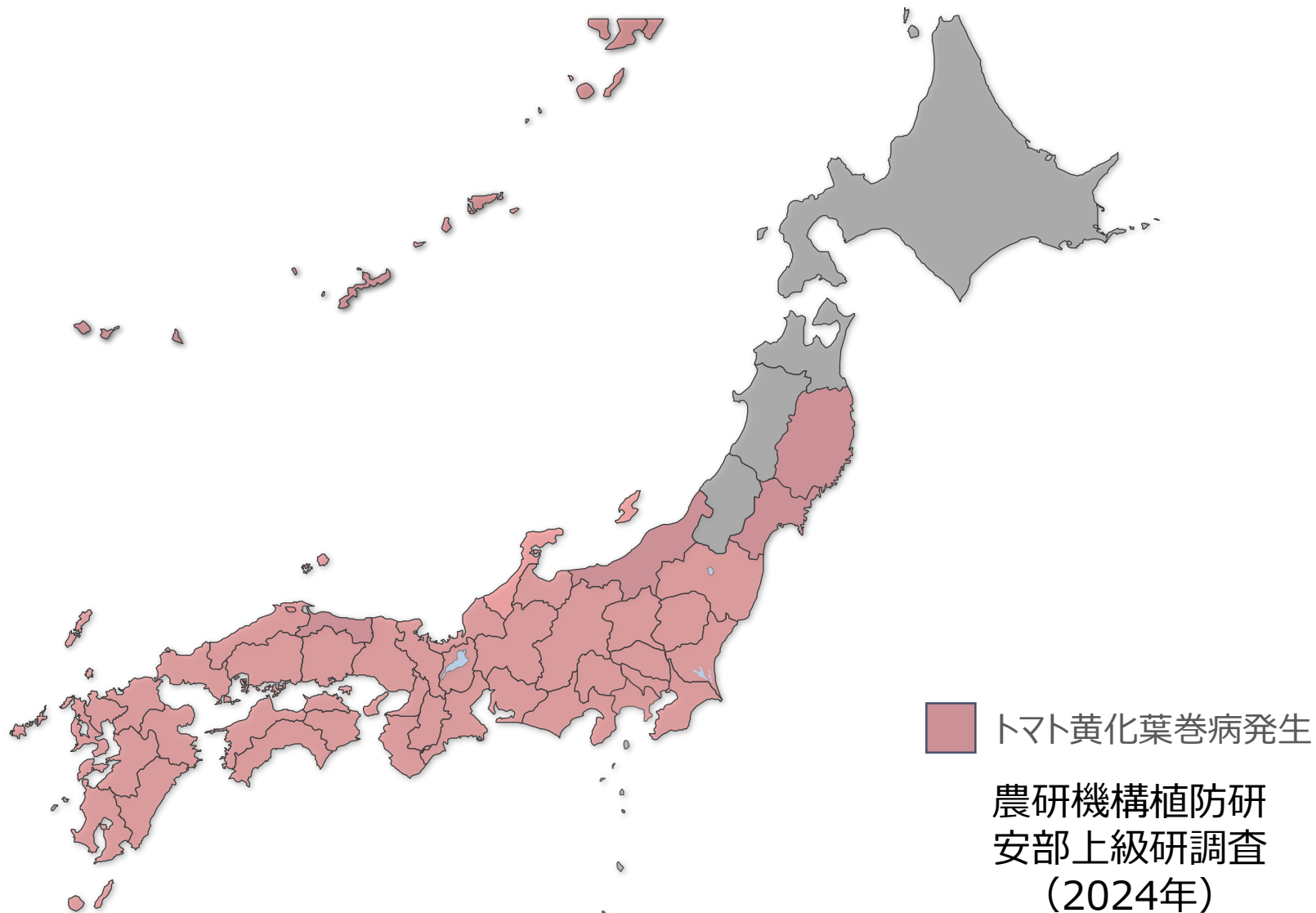
ウイルスを媒介するのは、タバココナジラミ



- ☞ カメムシ目 コナジラミ上科 コナジラミ科（世界に1,550種以上）の昆虫の1種
- ☞ 世界中で問題になっている大害虫
- ☞ 幅広い種類の植物、農作物を食べる（吸う）
- ☞ 小さい、よく飛ぶ、よく産む、よく育つ
- ☞ 様々な化学農薬に対して抵抗性を持つ
- ☞ 2004年、「バイオタイプQ（現在はMED）」と呼ばれるタイプが日本国内で確認される
- ☞ トマト黄化葉巻ウイルス等の病原ウイルスを媒介する（保毒すると一生媒介し続ける）

- 1973** 日本国内でオンシツコナジラミの発生が確認される
(タバコナはまだいない)
 - 1989** 国内で初めてタバコナが確認される
→ただし確認されたのはバイオタイプMEAM1 (バイオタイプB)
 - 1996** 国内でトマト黄化葉巻病が確認される
 - 2004** タバコナMED (バイオタイプQ) の発生が確認される
-
- 👉 その後、タバコナMED、黄化葉巻病ともに国内で急速に拡大
 - 👉 現在も拡大中

トマト黄化葉巻病の発生が確認された都道府県



1. 育苗・定植期の侵入・感染防止 **【入れない】**
2. 定植後の感染拡大防止 **【増やさない】**
3. 栽培終了時の蒸し込み・残渣処理 **【出さない】**
4. 施設内外の雑草や野良生えトマトの管理
5. 抵抗性品種の利用

1. 育苗・定植期の侵入・感染防止 **【入れない】**

- 購入苗のチェック
- ハウス開口部への0.4mm目合い以下の防虫ネットの展張
- 黄色粘着板／黄色粘着テープの設置
- ハウス周辺部への銀色反射資材の設置
- 紫外線カットフィルムの利用

2. 定植後の感染拡大防止 **【増やさない】**

- 発症した株の早期抜き取り、処分
- ハウス開口部への0.4mm目合い以下の防虫ネットの展張
- 黄色粘着板／テープの設置
- ハウス周辺部への銀色反射資材の設置
- 紫外線カットフィルムの利用
- 天敵製剤、気門封鎖剤や糸状菌製剤の活用

3. 栽培終了時の蒸し込み・残渣処理 **【出さない】**

- 栽培終了時の株の切断・抜根
- 施設の密閉と蒸し込み処理
- 作物残渣の処理